

**農業と福祉が繋がれば、
日本はもっと元気になる**

2014年10月に鹿児島労働局長奨励賞を、2015年3月に第5回「日本でいちばん大切にしたい会社・審査委員会特別賞」を受賞した白鳩会。会の歴史は40年以上前にさかのぼり、昭和48年に知的障害者更生施設「おおすみの園」を開園したことが始まり。以降、スタッフと利用者が一緒になって汗を流して育つ「共汗・共有」をモットーに、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所、グループホーム、ケアホームの開設など福祉の輪を地道に広げ続けてきました。

「おおすみの園」の石碑には「働きを大切にすること／より働ける身体と／働きを作り出す賢さを育て上げて／一人一人を誇り高い存在とする楽園としたい」との言葉が刻まれています。理事長の

中村隆重さんはその理念を実現するた

め、日課の作業に「農業」



社会福祉法人 **白鳩会** しらはとかい



「白鳩会」理事長の中村隆重さんと、「おおすみの園」園長の中村多喜子さん



農業、福祉、観光が一体となった「農福観連携」を目指す始まりの地



園のシンボルとなっている彫刻「緑の風」



牛、豚、鶏、鳩をあしらった花の木農場のロゴ

を導入しました。いわゆる「農福連携」の原点です。広大な敷地を有する「花の木農場」では、農産物の生産から、食品の製造・加工、販売までを一貫して行っています。理事長の想いは職員や利用者の一人ひとりが共有。働く喜びを分かち合う清々しい汗と笑顔がとても印象的です。

**「支援する施設」ではなく、
「一緒に働いて生活する場」**

白鳩会の創立から43周年を迎え、理事長の中村隆重さんは次の40年へ向けた新たな取り組みを開始しました。その一つが、「花の木農場」内に完成予定の新「セルフおおすみ（障害者支援施設）」です。農場では大隅の大自然と向き合いながら、野菜、お茶、牛、豚などを育てています。消費者の厳しい目にも耐えられるモノづくりを目指し、積極的に販売活動を行い、その結果として高い工賃の支給・還元も可能としました。これからの40年、理事長が目指すのは「農福連携」の先を行く農業、福祉、観光が一体となった「農福観連携」です。大隅の地に拓かれた「花の木農場」を舞台に、しっかりと根付いた中村隆重さんの情熱とロマン。その多種多様な種の数々が、今まさに太陽に向かって花開こうとしています。

社会福祉法人 白鳩会
鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北2105
TEL.0994-24-2517

